

第8 2回ボランティア広場概要  
「これからの団体に必要な仲間づくりとは？」

1. 日 時：令和7年2月1日(土) 14時～15時30分
2. 場 所：かわぐち市民パートナーステーション 会議室1～3
3. 講 師：NPO法人CRファクトリー 間藤 大輔氏
4. 参加者数：7名（団体所属4名、一般市民3名）

5. 要 旨

自身が所属している「NPO法人CRファクトリー」について説明しながら講座を進めていく。当法人では、「強くあたたかい組織・コミュニティ」というコンセプトを提唱している。「強くあたたかい組織」とは、成果やスピード・推進力がある強さと、楽しさ・居心地の良さ・充実感のあるあたたかさがバランスを保たれていることである。

この講義では、「非営利組織の運営の難しさ」、「コミュニティマネジメントの基本原則」、「新たな仲間の巻き込み方」の3つについて説明する。はじめに、「非営利組織の運営の難しさ」について、よくある団体の構造は2つある。1つ目の構造は、事業理念ばかりを追求する代表。そのような場合、スタッフは手段化し、疲弊してしまい、代表は孤独になってしまう。そして、事業が停滞し悪循環になる。もう一つは、スタッフ間の関係性を重視してしまう代表。一見すると良い団体に思えるが、徐々に集まることが目的となり、サークルのようになってしまう。よって、スタッフが目的成果のための手段と化していないか、人に寄り添いすぎて活動が鈍くなっていないか、その2点について考えてほしい。

さらに、非営利組織に共通する悩みとして、「温度差」が挙げられる。理念への共感の差、成果に対するこだわりの差、主体性やモチベーションの差、などスタッフ間の「温度差」や「多様性」をどうするのが課題となる。このような温度差や「多様性」が広がると、ミーティングに集まらなかったり、タスクを行ってなかったりする。そして、代表が孤独を感じてしまうが、これは代表に問題があるわけではなく、団体構造に問題がある。その問題とは、「メンバーが主体的でないから」、「メンバーのコミットメントが低いから」等がある。主体性や愛着を上げていくような働きかけが必要となる。

次に、「コミュニティマネジメントの基本原則」について説明する。「コミュニティマネジメントの基本原則」は、5つある。1つ目は、「サービスではなく

『コミュニティ』である。代表ががんばってしまうと、徐々にサービスになってしまう。代表や団体の運営側も客と同じように楽しみ、客も運営を手伝えるような主客交代・主客融合がコミュニティである。2つ目は、「舞台と役割・出番をコーディネートする」ことである。リーダーはコーディネーターとして活躍し、会員は一緒につくるキャストとして役割・出番をコーディネートすることが重要である。3つ目は、「人はコストをかけた分だけ愛着がわく」である。人は大切な時間を費やした分だけ愛着がわきやすいため、メンバーには時間を使ってもらい、苦勞してもらおう。しかし、燃え尽きないようにすることが重要。4つ目は、「お金以外の報酬に着目する」ことであり、5つ目は、「自動的に運営される仕組みをつくる」ことであるが、今回は、4つ目の「お金以外の報酬に着目する」について、掘り下げていく。人のやる気を上げ、高い成果を上げてもらうには、動機を理解することが重要になる。なぜこの団体に関わっているのか、活動を通して得たいものは何かを把握し、満たすことができるように機会提供するように心がける。

そして、報酬とは、お金以外にもある。例として、成長、出逢い、楽しさ、学び、貢献感、居場所、充実感、感謝、仲間等が挙げられる。ここでグループワークを行う。

#### (グループワーク)

今回資料として、「動機・報酬・未来シート」を配布しているので、ぜひ自身の団体で利用してほしい。

「新たな仲間の巻き込み方」について、市民活動団体の課題の一つに、「人をうまく巻き込めない」ことがある。人をうまく巻き込めないと、活動が盛り上がらなかつたり、担い手が減っていったり、しまいには一人になってしまう。人を巻き込み、定着し、担い手になってもらうためのポイントについて述べたいと思う。考え方として、興味、愛着、主体の3つのフレームと捉えることができる。まず、興味を持ってもらうためには、知ってもらうことが必要である。新たな接点を増やせば、担い手になってくれる確率が上がる。広報活動やイベント企画を考えると良い。次に、愛着をもってもらおう。いかに居心地よいと思ってもらえるような居場所づくりができるか、「つながり」と言えるような個別に声をかけられる「関係性」をどのようにつくっていくかを考える。そして最後に、主体となってもらおう。ポイントは、仕事を手伝ってもらうことや、ミーティングに誘うことなどがある。

最後に、グループワークにおける団体間の交流によって、自身の団体の学びになることがあれば、団体の会員にも共有し活用してもらいたい。

第82回ボランティア広場の様子

